

日時	発言者	内容	市場への影響
7月2日	トリシェECB総裁	「ECBの政策金利は現時点では適正」「景気は2010年半ばまでに回復」との見方を改めて強調。(定例理事会後の記者会見で)	ユーロドル1.40台から→1.39台 半ばまで下落。
7月8日	オリビエ・ブランシャール IMFチーフエコノミスト	「世界経済はなおリセッション下にあるが、少しずつ回復に向かっている。これまで講じてきた財政や金融、信用供与政策を引き続き実行する必要がある。」と文書で発表。	-----
7月13日	トリシェECB総裁	ドイツミュンヘンでのイベントで「出口への準備は重要だ。時期尚早だとの認識は誤りだ。」と語り「出口戦略」の検討は必要との見方を示す。	-----
7月14日	ガイトナー財務長官	サウジアラビアでの演説で「米政府の金融政策とFRBの政策は＜強いドル＞の支持で一致している。」と述べた。	-----
7月15日	ルービニ NY大学教授	NYで開かれたチリの投資家のための会議で「米経済の急降下は止まった。経済は今も縮小しているが、そのペースは穏やかだ。」と述べ米景気後退は終焉を迎え、リセッションを終えたとの見方を示した。	NY株式市場上昇
7月21日	バーナンキFRB議長	「景気下降のペースは著しく緩やかになった。」「金融政策は引き続き景気回復を促すことに重点を置く。」景気は良い方向に向かっているが、現行金融政策継続との考えを示す。(下院での議会証言で)	債券相場上昇(長期金利低下)
7月22日	バーナンキFRB議長	「(住宅価格の下落が終わったとは)決して言いきれない。」「住宅価格もある程度安定したように見受けられるが、価格には下振れ圧力がかかっている。」(上院での議会証言で)	-----
7月26日	バーナンキFRB議長	「今年下期(7-12月)の経済成長率は1%のプラス。失業率は10%を超えた後低下し始める。」と発言。(カンザスシティーでのタウンミーティングで)	-----
7月27日	ガイトナー財務長官	米中戦略経済対話での挨拶で「2013年までに政府の財政赤字を持続可能な水準まで削減する方策に取り組んでいる。」と述べた。	-----
7月27日	プロッサー フィラデルフィア 連銀総裁	ウォールストリートジャーナル紙の取材に対して「おそらくそれ程遠くない将来に金利を引き上げはじめなければならないだろう。」との見方を示した。	-----
7月28日	スティーブンス オーストラリア 準備銀行(RBA)総裁	「他の多くの国とは対照的に、豪州の現在の景気下降は最後の深刻な下降期の一つではないと判断する公算がある。」(シドニーでの講演で)	オージーUSDドル0.82台から→ 0.8315、オージー円78円台半 ば→79円28まで豪ドル高進む。